

平成 30 年 5 月 23 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K03843

研究課題名(和文)ニューカマー外国人の高齢化：高齢者予備層の戦略分析

研究課題名(英文) Aging of migrants in Japan: Analyzing strategies of the pre-retirement generation

研究代表者

高谷 幸 (Takaya, Sachi)

大阪大学・人間科学研究科・准教授

研究者番号：40534433

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、1980年代以降に来日した移住者が高齢化しつつある現状を踏まえ、高齢者予備層の在日フィリピン人と在日ペルー人に着目し、その社会経済的状況と老後の戦略を分析することを目的としてきた。計90名を超えるインタビューを通して、離婚の多さと女性の不利な状況、不安定な就労状況と高齢化後の生活基盤の脆弱さ、不動産投資と高齢化後の居住地選択の関係などを明らかにした。研究期間中に雑誌論文13件、学会発表9件、図書8件の発表を行い、さらに今後も成果発表を予定している。

研究成果の概要(英文)：This research has aimed to analyze the socio-economic conditions of the migrants who came to Japan after the 1980s and their strategies facing the aging. Through the interviews on more than 90 Filipinos and Peruvians in Japan, it found out as follows: First, both of the Filipinos and the Peruvians in Japan have a high number of divorces, which results in the disadvantage of those women. Second, their unstable labor conditions will lead to the vulnerable living conditions after the aging. Third, compared with the Filipinos, the Peruvians tend to have a choice of the place of residence after the aging. Some of them invest the real estate in Peru but others cannot afford it. Our research group published 13 papers and made 9 presentations during the period.

研究分野：社会学

キーワード：ニューカマー外国人 高齢化

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

ニューカマー外国人の来日から30年以上経過し、高齢者比率はまだ低いもののその予備層を50歳以上とすると、彼・彼女らの比率は年々高まっている。具体的には、2013年の時点でフィリピン人口の1割、ペルー人口の2割に達していた。そこで高齢化に向けた研究が必要な段階に到達しているという認識のもと、本研究を企画した。

2. 研究の目的

本研究では、この高齢者予備層の在日フィリピン人と在日ペルー人に着目し、その社会経済的状況と老後の戦略を分析する。その際、資源獲得の類型（自助、互酬、再分配、市場交換）と、資源仕様の類型（ナショナル・トランスナショナル）の組み合わせにより戦略の主要なパターンを析出する。そうしたパターンの分岐を生み出す要因を解明することで、誰がなぜどのような老後生活を構想しているのかを明らかにできる。さらに、そうした知見を政策・実践課題として提示し、アドボカシーにつなげていくことが、期間全体を通じた研究目的となる。

3. 研究の方法

高齢者予備層として位置づけられる50歳以上の在日フィリピン人とペルー人各40-50人に対して、現在の社会経済的状況と老後の生活予定についてインタビュー調査を行う。当初は、このインタビューデータをもとにカール・ポラニーの類型を用いて老後戦略のパターンと規定要因、そこから予想される帰結と課題を明らかにすることを考えていた。

4. 研究成果

インタビューデータは引き続き分析中であるが、在日フィリピン人・ペルー人高齢者予備層の社会経済的状況および老後の生活戦略を明らかにする目処はついている。現時点での主な知見として、在日フィリピン人の場合、来日から30年程度経過する中で、一定の社会的地位を獲得する者がいる一方で、不安定な生活状況や貧困に直面している者もあり集団内部の階層分化が進んでいること、その分化は主に家族形態によって規定されていることがあげられる。

過去15年の間にフィリピン女性の就業率は上昇しているが、その背景には、子どもがある程度成長し、再度就労する者が増加したことがある。ただし日本籍女性と比較すると就業率は低い。つまり国際結婚女性の就業パターンは、日本の既婚女性のそれをより強化したものといえ、ホスト社会の支配的な性別分業構造に大きく規定されている。またシングルマザーも日本のシングルマザー同様、就労している者が多いが、

そのなかで60歳以上になっても働き続けていることは珍しくない。さらに、子どもが成長した後に生活保護を抜け、経済的に自立したシングルマザーも少なくないが、そのなかには子どもとともに非正規雇いで就労しているケースも目立つ。彼女たちの年金は低額と見込まれ、高齢化による離職や子どもの独立に伴って、生活基盤がより脆弱になる可能性は高いと推測される。

ペルー人の場合、フィリピン人と異なるのは国際結婚が少ないこと、並びにペルーと日本の両方で老後を送るオプションの広さにある。また、就労比率が高くリーマンショック後の大量解雇や就労条件の悪化の影響を他のグループより受けてきた。だが同時に、離婚件数の多さでは共通しており、女性に対して不利に作用する。これまでの研究では、派遣労働への集中やリーマンショックといった労働市場に焦点が当たってきたが、それに加えて加齢を考慮したのが本研究の特徴となる。ペルー人は、1990年代前後に来日した層がブラジル人よりも多い。この時期に20代で来日した者の多くは、調査期間中に50代を迎えているが、(1)日本またはペルーで不動産を購入する、(2)貯蓄ができないまま日本での居住が四半世紀を超える、いずれにせよ貯蓄額がほとんどない状況となっている。

(1)の場合、ペルーで不動産を購入していれば、ペルーの経済発展により資産価値が上がっており、老後の見通しは相対的に明るい。日本で不動産を購入した場合、ローンをまだ払い終わっておらず、資産としての価値も上がっていないから、単にローンと家賃が相殺される関係にしかならない。

(2)の場合はさらに深刻で、自分が働ける間は問題がないが、それがかなわない場合には子どもに頼るか生活保護を受給するしかない。ペルーに帰国した者の状況をみる限り、ペルーに資産を持たない限り生活状況は日本よりかえって悪く、日本で生活した方が「よしまし」な選択となる。日本で年金に加入していた者は少ないが、加入していればペルーでの最低賃金3万円強の1.5倍程度になるため生活は不可能ではない。しかし、そうした者の比率は1割以下であり、そうでない者は日本に住む方が現実的となる。とはいえ日本で子どもに頼ることができる比率は低く、多くが高齢者向きの仕事をしながら生活することになる。それもかなわない場合、年金も得られないかきわめて定額であるから、今後は生活保護受給者が急速に増えることが予想される。

これらの知見の発表方法については、すでに発表した論文のほか国際会議での発表や論文の投稿を予定している。

また本研究は、得られた知見を政策・実践課題として提示し、アドボカシーにつなげていくことも目的としていた。この点については、市民団体による省庁交渉や政策

提言における基礎的データとして提供を予定しているほか、自治体職員を対象とした講演にも研究成果を用いた。また市民団体と協力して移住女性へのワークショップを開催し、研究成果の還元に努めた。2018年5月には、在日ペルー人協会と在日本ペルー大使館が主催する会議で報告予定であり、ペルー人コミュニティへの還元にも着手している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計13件)

樋口直人、在日コリアンの社会経済的状況の動態 職業の変遷を中心に、青鶴、査読無、6号、2015、pp.192-211.

稲葉奈々子、多様性を反映させる大学入試の試み—フランスの例、M ネット、査読無、179号、2015、pp.10-11.

稲葉奈々子、フランスの労働組合と移住労働者、M ネット、査読無、183号、2015、pp.16-17.

樋口直人、国家安全保障と排外主義、IMADR 通信、査読無、184号、2015、pp.12-13

Naoto Higuchi, Dynamics of Occupational Status among Koreans in Japan: Analyzing Census Data between 1980 and 2010, Seoul Journal of Japanese Studies, 査読有, Vol.2, No.1, 2016, pp.1-25.

高谷幸・大曲由起子・樋口直人・鍛治致・稲葉奈々子、東日本大震災・被災三県の外国人住民 2010年国勢調査のデータ分析、岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要、査読無、41、2016、pp.43-59.

高谷幸、在日フィリピン人国際結婚女性の就業、国際人権ひろば、査読無、126, pp.10-11、2016.

樋口直人、

1980~2010、査読有、14、2016、pp.82-105.

稲葉奈々子、都営霞ヶ丘アパート取り壊しと東京都のエイジズム、世界、査読無、897号、2017、219-228.

稲葉奈々子、国籍の異なる隣人とともに—外国人受け入れ政策の実態と課題、月刊自治研、査読無、692号、2017、pp.16-21

樋口直人、ジェンダー化された編入様式—在日外国人の分岐をめぐる分析枠組み、アジア太平洋レビュー、査読有、14号、2017、2-18.

樋口直人 2017, 外国人参政権の未来、エトランデュテ、査読無、1号、2017、pp.117-133

高谷幸、なぜ移民政策が確立されないのか：日本における移民をめぐる政治とリベラル・トリレンマ、理論と動態、査読有、2018、58-77.

[学会発表] (計9件)

樋口直人、民族経済のダイナミクス—在日コリアンの職業の推移、1980-2010、ソウル大学日本研究所シンポジウム「東アジアの中の在日コリアン：ディアスポラを超えて」、2015、ソウル大学

高谷幸、在日フィリピン人女性のトランスナショナルな市民社会への参加、多文化関係学会、2015、岡山大学

稲葉奈々子、Travailleurs migrants au Japon: genre et activité professionnelle、早稲田大学パリオフィス講演会、2015、パリ政治学院

稲葉奈々子、反貧困運動 日本における『貧困』概念の誕生」日仏会館シンポジウム<周縁>が生み出す社会変革の可能性、2016、日仏会館。

樋口直人、ジェンダー化された編入様式—(1)移民集団間の分岐をめぐる分析枠組み、関東社会学会、2017、日本大学

高谷幸、ジェンダー化された編入様式—(2)家族を通じた分岐、関東社会学会、2017、日本大学

稲葉奈々子、ジェンダー化された編入様式—(3)移住者の貧困と文化的再生産論、関東社会学会、2017、日本大学

高谷幸、現代日本における移民の編入様式—家族・ジェンダー・市場、日本社会学会、2017、東京大学

樋口直人、日本型排外主義と多文化共生両者の関係を再考する、多文化共生に関する分野融合研究会、2018、宇都宮大学

〔図書〕（計 8 件）

__高谷幸、岩波書店、岩波講座 現代9 身体と親密圏の変容近代家族の臨界としての日本型国際結婚、2015、211-237

__稲葉奈々子、明石書店、マリを知るための58章、2015、320-324

__稲葉奈々子、明石書店、マリを知るための58章、2015、325-329.

__高谷幸、有斐閣、現代人の国際社会学・入門：トランスナショナリズムという視点、2016、94-108

小倉紀蔵、大西裕、樋口直人、朝日新聞出版社、嫌韓問題の解き方 ステレオタイプを排して韓国を考える 2016、177-246

__稲葉奈々子、外国人権法連絡会、日本における外国人・民族的マイノリティ人権白書 2016年、2016、32

__高谷幸、ナカニシヤ出版、追放と抵抗のポリティクス：戦後日本の境界と非正規移民、2017、264

__高谷幸、京都大学学術出版会、国際移動と親密圏：ケア・結婚・セックス、2018、49-78

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

高谷幸（TAKAYA, Sachi）

大阪大学・大学院人間科学研究科・准教授

研究者番号：40534433

(2)研究分担者

樋口直人（HIGUCHI, Naoto）

徳島大学・大学院総合科学研究部・准教授

研究者番号：00314831

稲葉奈々子（INABA, Nanako）

上智大学・総合グローバル学部・教授

研究者番号：40302335

大曲由起子（Omagari, Yukiko）

大阪経済法科大学・アジア太平洋研究センター・研究員

研究者番号：00626327

(3)連携研究者

（ ）

研究者番号：

(4)研究協力者

（ ）